

登場人物 女3人、男3人

山本幸子 若草学園卒業生

鈴木雪子 若草学園卒業生

斉藤妙子（こいちゃん） 若草学園卒業生

杉浦誠 亡き鶴子の夫

児玉寿男 幸子の隣人

暇名林太郎 ひまな工務店の長男

幸子の家のおびただしい物に溢れたりリビングルーム。
夏の暑い季節。

テーブルの上のラジカセからイタリア歌曲の「樹木の陰で（ラルゴ）」が
低く流れている。

舞台中央奥には大きな窓。窓の下には踏み台が置かれ、その下には玄関
マットと下駄箱とスリッパたて。一本の柱。部屋にはダイニングテー
ブル、椅子とソファ、自転車、電話台、電話など。

十個以上あるふたの開いたダンボールから古着が溢れ、お中元と思われる
新しい贈答品の箱も一ダースくらい積み上げられている。

数えきれないくらいゴミ袋が無造作に部屋のあちこちに置かれ、新聞
紙、雑誌類とともに床を覆っている。

ゴミ袋にはマジックで大きく「ヤマト」の文字。
部屋にはロープが張られ、洗濯ものが干されている。

乱雑な部屋で目をひくのは若草学園の大きな校章と、木彫りの小さなお
地藏さまが並べられている本棚。

上手は玄関へ通じ、玄関の脇には二階への階段がある。下手は台所へ。

長靴を履いた幸子が片手にスコップを持ち、窓を乗り越え入ってくる。玄
関マットで靴の泥を拭うと窓を閉める。のろのろと長靴を脱ぎ下駄箱にい
れ室内履きに履き替える。

幸子、足を引きずりながら台所へ。手を洗う音とつがいの音。部屋に戻
ると干してある洗濯もので手と顔を拭く。

突然、窓を叩く音が部屋を振動させ、幸子が硬直する。

児玉の声 山本さん、山本さん、山本さん。

幸子 ……。

児玉の声 隣の児玉です。

幸子 ……。

児玉の声

ガットのことでお聞きしたいことがあるんですが。電話したり、インターホン押してもお出にならないので。最近、玄関使っていないようですわよね。なんだから皆さん、庭から行き来してらっしゃるようで。さっき宅配便のお兄ちゃんに聞いたら窓で声かければお出になるって。いらっしゃいます？ 山本さん。

幸子、窓にゆっくり近付きガラスを少しずらすと勢いよく窓が開く。児玉の上半身が覗く。エプロンをつけ頭には三角巾。

児玉 ガットご存知ありません？

幸子 ……いいえ。

帰ってこないんです。昨晚、家内が帰ってきたとき、玄関開けたらあつという間に出ていってしまって。それっきり影も形も。そりゃあ、元気な子ならいいですよ。前にも二度ばかりいなくなつたことがあつたんですが。今はあんな足でしょう。どこをさまよっているかと思うと不憫でかわいそうで、野良犬にいいめられるんじゃないかと心配で、誘拐だってありえますもの。家内は足がびつこの犬なんて誰も誘拐しないって言いますが、ガットはとびつきり器量がいんですもの。足なんか引きずっていても、あんなに可愛い子はめつたにいませんわ。泣き声お聞きになりませんでした？

幸子 いいえ。

児玉 まったく、しょうがない子。ちょっと甘やかしたんです、あれ以来。

…痛い思いさせましたでしょう。

幸子 …あの節は御迷惑かけて。

児玉 ごめんなさい、また言ってしまうましたわ。いいんですの、私もガットも忘れしました。忘れるよう努力しましたの。

幸子 すみません。

児玉 ホントにどこに行ったのかしら。前は六丁目で迷ってましたの。

幸子 六丁目なら友達がいいます。

児玉 あのきれいな奥さん。生活クラブの集会で一緒にしましたわ。ガットのチラシつくりましたの。お渡ししていただけます？

幸子 一丁目にも友達がいいます。

児玉 線路の反対まで行かないと思うんですが。あの子、ああ見えて慎重な子でも念のため、渡してください、よろしく。

幸子、児玉からチラシの束を受け取る。

児玉 ガットと私。一番良く映ってるの選びましたの。可愛いでしょう。ガットだけのもあつたんですが、私たちがいつも一緒でしたもの、私の顔があつた方が印象に残るかと思いましたが。

幸子 ……。

児玉 最近、自転車お乗りになつてませんわね。

幸子 ……怖くて。

児玉 でも、車も運転なさらなからご不自由でしょう。

幸子 ……出かけませんから。足が痛くて。

児玉 あの時はガットを自転車で運んでくれたじゃありませんか。猛スピードで。

幸子 ……だんだん痛くなつて。

児玉 病院には？

幸子 ……薬も電気も効かなくて。

児玉 (人差し指をふって)ダメダメ、あきらめちゃあ。ガットもリハビリしたんです。後遺症はしっかり残りましたが、歩いてます。どうしようもない子。こんなにパパを心配させて。

幸子 すみません。

児玉 本当にどこにいるのかしら。台風が来るんですよ。夕方あたりから風が強くなりそう。

幸子 ……見かけたら連絡します。

児玉 外にお出かけにならないでしょう。チラシ、無駄になつても困りますので、他で配りましょうか。

幸子 ……今日、六丁目と一丁目が来ます。配ってもらいますから。

児玉 あら、お願いしていただけます。ガットのこと自治会、生活クラブ、老人会、子ども会、幼稚園、小学校、中学校には連絡しました。郵便局と銀行と地区センターにチラシ貼りましたの。家内が山本さんにも協力していただいたらと言うんですが、そのお足ではお気の毒で頼めませんわね。

幸子 すみません。

児玉 じゃあ、チラシだけお願いします。

児玉、立ち去ろうとして戻ってくる。

児玉 コミ回収車、午前の回収が遅れて、午後になるそうです。お宅、ゴミいっぱいあるんですね。(部屋を覗き込む)

幸子 ……ゴミではなくて。回窓会のバザーに出す不用品です。今日友達と整理します。すみません。

児玉 あの、それとちょっと、言にくいんですけど、ご近所から自治会の方に苦情がきてまして。

幸子 何か。

児玉 お宅、臭うんですけど。

幸子 ……。

児玉 生ゴミ、お庭に埋めてません？

幸子 いいえ。(強い口調で)生ごみなんて埋めてません。

幸子の携帯がなる。

幸子 すみません、なんだか、今日は朝から忙しくて。

児玉 あら、おじゃましました。

幸子、頭を下げて、窓を閉めて携帯をとる。

幸子 もしもし、こいちゃん。

妙子の声 ごめん、銀行さんの督促で時間かかってん。これから仕度して出かけるわ。

幸子 住宅ローン、大丈夫なん？

妙子の声 大丈夫、大丈夫。

幸子 お地藏さん、幾つできた。

妙子の声 二体、ごめん忙しゅうて。

幸子 ご主人、家出中なのに悪いな思ってたん。雪ちゃんも二体やて。あと四体作ったら、百体完成や。ちよつと待って、児玉が叫んでる。

児玉の声 皆さま、もうすぐゴミの回収車が参ります。まだゴミを出していない方、お急ぎください。今日は燃えないゴミの日、プラスチック製容器包装の日です。週一回の回収日です。午前の収集が遅れて午後になりました。ゴミを出していない方、間に合います。

幸子 またゴミで張り切ってはるわ。

妙子の声 奇特なおつちゃんや。

幸子 それ皮肉？

妙子の声 ちやう、ちやう。

幸子 それから、うちの玄関使われへんから庭のリビングの窓から入ってきて。氣をつけて。徹夜覚悟でね。

幸子、携帯をテーブルの上に置く。

児玉の声 皆さま、もうすぐゴミの回収車が参ります。お急ぎください。

幸子、足元のゴミ袋を手に持つ。しかし、足が動かない。歩こうとするが体が硬直。

静寂。

窓を叩く音。

雪子の声 四葉。

幸子、窓へ。

幸子
（囁くように）クローバー。

雪子の声
若草クラブ。

幸子
雪ちゃん。

幸子、窓を開ける。

雪子
幸ちゃん、どないしたん。顔真つ青やん。

雪子、窓を乗り越えて入ってくる。雪子、靴を脱ぐと自分でスリッパに履き替える。幸子、窓を閉める。

雪子
臭う、臭う、何の臭い。

雪子、ゴミ袋を手にする。

雪子
まさか生ゴミ？

幸子
生ゴミは捨ててる。

雪子
幸ちゃんの家は毎日焼肉にステーキに鳥のから揚げやもんね。空気入れ替えんと、脂肪のたまった空気で窒息するわ。窓開けるよ。

幸子
開けんといて、お願い。児玉がまた、覗きにきていやみ言っねん。児玉の気配で息がつまる。

雪子
今なら、大丈夫。えらいおっちゃんや。近所のゴミ出し手伝ってるわ。今ならまだ間にあう。ゴミ袋ふえたんちゃうん。出してきてあげる。

雪子、窓を大きく開け、ゴミ袋の中を覗く。

雪子
今日は何の日。

幸子
水曜日。若草会の日。毎月第一水曜日。

雪子
何のゴミの日。

幸子
燃えないゴミの日。プラスチック製容器包装の日。

雪子
燃えないゴミの日。燃えないゴミ。プラスチック製容器包装のゴミの日。

雪子が両手にゴミ袋を持って出ていこうとする。

幸子
中身確認して。児玉が必ず点検するねん。

雪子
まだできひんの。

幸子
考えて分別したらちつともすすまへん。

雪子
几帳面もええかげんにしい。

雪子、ゴミ袋の名前を見る。

雪子 ヤマト、署名入りゴミ袋、いまだ健在なりか。
幸子 児玉の案やもん。ゴミ袋の中身に責任を持つ。
雪子 難儀な隣組。

雪子、袋を開けて中身を点検する。いらいらして、中身を全部、床にはら撒く。

雪子 幸ちゃん、クリーニングの袋は燃えるゴミ。中身が商品でない包装は燃えるゴミなんよ。

幸子 どうしてレジ袋が燃えないゴミでこれが燃えるゴミになるの。同じやと思うんやけど。

雪子 幸ちゃん、考えたらゴミの分別はできひんの。役所が決めたことは考えたらわからへん。ビデオテープは燃やすゴミ。プラスチックの洗面器も燃やすゴミ。おもちゃも燃やすゴミ。そのまんま頭にいれるねん。なんでて考えたらあかん。クリーニングの袋は中身が商品ではないので燃えるゴミ。

幸子 カップめんの包装フィルムは中身が商品やから燃えないゴミ。ビニール傘のビニールは燃えるゴミ。マヨネーズ、ケチャップの容器は燃えないゴミ、こんなにきれいに洗わなくてもええんよ。水を汚すでしよう。環境汚染になるんやから。

幸子 市役所のお知らせに「容器はきれいにしてゴミに出してください」って書いてあった。

雪子 それは十七年版。十九年版で改定されたんよ。
幸子 絶句。

雪子、分別したゴミを袋に入れる。

雪子 シャンプー、洗剤、歯磨き粉、わさびにからし、ペットボトルのキャップ、果物のネットは燃えないゴミ、ヨーグルト、アイスクリームの紙製容器は燃やすゴミ。

幸子、ペットボトルを持ってくる。

幸子 雪ちゃん、ペットボトルのラベル、剥がれへんねん。

雪子 そのまま、捨てとき。

幸子 ラベル、剥がして捨てなさいって書いてあったやん。このまま捨てたら児玉にまた、言われる。

雪子 言わせとき。

幸子 それができひんから困ってるんやない。

雪子 なに、これ必死にしがみついている。(ペットボトルのラベルと格闘)

幸子 くつついたら剥がれへん、兎玉みたいなラベルやねん。

雪子 このメーカー止めとき。消費者に不親切、頑丈にくくりつけたら迷惑や。

幸子 旦那が買うてくるんやもん。

雪子 ペットボトルのラベルはプラスチックゴミで燃えないゴミ。

雪子、ラベルを袋に入れると袋の口を結ぶ。

雪子 できた。完璧分別、二袋。

幸子 雪ちゃんは主婦の優等生や。

雪子 若草学園、主席卒業生が、何で覚えられへんかわからへんわ。

幸子 ここに引つ越してきた頃は高性能の焼却炉があるから、燃えるゴミも燃えないゴミも一緒くたやった。高性能の焼却炉はうそやったんや。

雪子 お役所の言うことを信じてたら神経がもたへん。他にも燃えないゴミの袋あるでしょう。分別しとって。

雪子、ゴミ袋を両手に持つと出ていく。

幸子、ゴミ袋の中身を点検しながら、同じゴミを出したり入れたり。疲れて、床に座りこむとゴミを一個づつ投げながら、ゴミ分別冊子のあいいうえお順に暗誦を始める。

幸子

アイスピックは小さな金属類、アイロンのプラスチックは家庭ゴミ、アイロンの金属製は小さな金属類、油紙は古紙、雨合羽は家庭ゴミ、編み機は粗大ゴミ、アルバムは家庭ゴミ、アルミ箔、アルミホイールは家庭ゴミ、アルミ缶は缶、びん、ペットボトルの日。衣装ケースは粗大ゴミ。

雪子、窓を乗り越えて戻ってくる。

雪子

ぎりぎりセーフ。回収車、来はったとこやった。二つは出せた。なんや、さっきよりゴミが増えた気するわ。

幸子

ゴミ袋エルサイズ二つはこの部屋から消えたんやけど。

雪子、本棚のお地藏様をゆっくり見ながら。

雪子

えらい気ばりはったな。幸ちゃんのお地藏様、いろんなお顔してはる。お顔で止まるねん。

幸子

幸子はぐずぐず、ゴミを集めたり散らかしたりを続けている。

雪子 いい加減にし。幸ちゃん見てると、ますます部屋が暑くなる。

幸子 ……。

雪子 (お地蔵様の埃を取りながら) 児玉が「いつでもゴミ出しお手伝いします」って言っってはった。幸ちゃんの足も心配してはったわ。気がええおっちゃんや。退職してオバサンになりはってん。男がオバサンになったら怖いで。

幸子 奥さんが毎日働きに出はるようになったんでしょ。

雪子 自分の価値観が絶対やねん。自分は善意の人やと思っってはる、思いこんではるから怖いねん。

幸子 ゴミ出しにえらい情熱持つてはるな。

雪子 ゴミだけやないねん。

幸子 若草会、始めよ。こいちゃんが来る前に、お地蔵様彫る場所だけ確保せんと、時間もつたない。幸ちゃん、ゴミ袋は玄関に積み上げといたらええわ。玄関、使ってないんやから。

雪子、テーブルを片付け始める。

雪子 (テーブルの上のダイレクトメールの束を手に) 捨てていいでしょう、これ。

幸子 あかん、銀行からのお知らせもあるし。

雪子 そんなん、銀行に任せといたらええ。貸し金庫の使用料、自動引き落としされへんて喜んでたら、翌年わかりはってん、二年分引き落とされたわ。しっかりしてはる。

雪子、紙袋にテーブルの上の書類を全部投げ入れる。

雪子 ご主人、この暑いのにゴルフ？

幸子 ゴルフの朝はお肉焼いたん食べていきはるのに、今朝は私起きた

らもう出かけてはってん。うちなあ、お地蔵様彫りで朝方まで起き

てたんやけどここで寝込んでしもて、気いつかんかった。朝食べん

と出かけて大丈夫やるか。(ゴミ袋からまた、書類を出したり入れたりしながら

ら)

雪子 一食くらい抜いても大丈夫や。

幸子 三食食べんと、体に悪いやない。悪いことしたわ。

雪子 (ゴミ袋をどんどん上手へ運びながら) 今日日、幸ちゃんみたいに食べさせすぎも考えもんや。ご主人、あのお腹でこの窓出入りしてはるのん。

幸子 しょうないでしょう。玄関使われへんのやから。

雪子 よう、納得してはるな。

幸子 自転車が児玉の犬とぶつかったんも私の足が痛いのも北玄関のせいやて、占いさんが言いはるんやもん。先週から、二階の東南の部屋を玄関に造りかえてるねん。

雪子 東南の角の部屋、子供部屋ゆうてた部屋。また、急に。

幸子 駅前のひまな工務店にやってもらってる。

雪子 親父さん？

幸子 息子、急ぎやから無理言われへん。

雪子 今日も？

幸子 今、二階でお昼食べてはるわ。今月中に増改築せなあかんねん。

雪子 占いさん。

幸子 子供部屋なんか、結局、いらなかった。もっと早つつぶすべきやった。

雪子 (腕時計を見て) こんな時間や、着替えとかへん。

幸子 もつええの。

雪子 私らよう気ばって働いた。

幸子 そやるか。

雪子 幸ちゃんはもっと自分に自信もたんと。

雪子、セーラー服に着替える。

幸子も洗濯物と一緒に干してあったセーラー服を取る。

幸子 洗濯したん。ああ、乾いてる。

幸子、うきうきとセーラー服に着替える。

セーラー服の幸子と雪子は女学生の口調でトーンが高くなる。

幸子 どないしよう。先月ははけたのに。今日は入らへん。

雪子 ほんま？ それ一番大きいサイズやん。

幸子 これが入らなかつたら生きてられへん。雪ちゃん、腰のジッパーしめて。

雪子 きついわ。あがらへん。家にはっかかりおるからや。

幸子 矯正下着買っわ。

雪子 今日は間に合わへん。

幸子 思い切ってひっぱって。

幸子、柱にしがみつく。

雪子 いくよ。息止めて。せいの。

幸子 うーん。

雪子 がんばって。

雪子、尻餅をつく。幸子のスカートが床に落ちる。

雪子 どうしよう、ジッパーが壊れたわ。

幸子 雪ちゃんが無理にひっぱるんやもん。

雪子 幸ちゃんが肥えたんはうちのせいやないわ。

幸子 そうや、古着で送られてきたのがある。えらい大きい見た。

幸子、ソファの横のダンボールを指す。雪子が探す。幸子は柱にしがみついている。

雪子 細身ばかり。

幸子 下の方探して、大きいのがあるでしょう。

雪子 (探しながら) 若草学園の制服は変わらへん、六十年いっしょや。

幸子 制服は学校の原点であり誇りであり象徴である。

雪子 あなた方は学校の誇りを持って登下校するように。

幸子 千葉も埼玉も私らの真似してお仕事会でも総会でも着はるようになったんやて。何でも真似しはって……。

雪子、セーラー服を取り出す。

雪子 これ、年代もん。かなり改造してるわ。改造制服。ウエストが継ぎ布で大きく

なってる。

幸子 それ、それ。

幸子、袖を通す。

幸子 ばっちり。らくらく。呼吸もできる。先月かてちょっと苦しかったん。

雪子 「中年女性、セーラー服で窒息死」新聞の見出し、ちょっと恥かしいで。

幸子 雪ちゃんのいけず。

雪子 息子に言うてんの。死に装束は若草学園の制服にしてって。

幸子 雪ちゃんはおちつともサイズ変わらへんからええなあ。いつまでも着れる。鶴ちゃんもそうやった。セーラー服よう似あつてた。

雪子 お仕事会の時、三つ網にして目きらきらさせて。

幸子 (涙ぐみながら) 結局、鶴ちゃんは制服着せてもらえんでお棺に入れられてしもた。

雪子 (きつぱりと) あの石頭の旦那さんや、私らかてよう言わんかった。留袖なんか着せられて。ちつとも似合つてなかつたわ。

幸子 あの留袖、鶴ちゃんがお嫁入りの時持つてきはったもんや。ちよつと派手やつたな。

雪子 あのしぶちんの旦那さん、鶴ちゃんに一枚も着物作つてあげへんかったんやて。留袖の赤い菊、恥かしかつたやるな、あんな派手なん着せられて。

二階からのこぎりの音。

雪子 地震。

幸子 二階、やっと始めはった。お昼が長いねん。
雪子 ずっと続くの？

幸子 よう休みはるから困るねん。

雪子 (腕時計を見て) こいちゃん、おそいな。

幸子 電話あつてん。もうすぐ来はる。銀行からの電話で時間とられたんやて。こいちゃんも大変や。

雪子 世話の焼ける旦那さんや。

幸子 どこにいてはるんやろ、もう、ニヶ月や。こいちゃん、これからどつるんやろ。
雪子 大丈夫。旦那さん仏さんになつても心配あらへん。生命保険は大口に入つてはるし、労災申請してお金もらうつもりで勤務時間はきちんと日記に記録してはるし、家かて生命保険つきやからローンはチャラになるし、遺族年金かて出るし。

幸子 死にはるの。

雪子 そないなるんちゃう。こいちゃんは覚悟してたん。気が弱い旦那さんや、厳しい会社勤めは無理やつて。

幸子 リストラにあつてたんちゃうでしよう？

雪子 リストラする方やから神経参つたんやない。そやけど旦那さん残された家族の心配はせんとすむから、ええんちゃうの。

幸子 ローン、延滞して銀行から督促受けてるつて。

雪子 こいちゃん、株してもうけてはるのん。どの株売るか決心できひんだけ。

幸子 こいちゃんは、お父さんの会社が倒産しはつて、苦労してるから、しつかりしてはるな。

雪子 旦那さんも決心するなら早いことしはつたらええのに。

窓がなる音。

雪子 こいちゃんかな。

幸子 風や。

雪子 台風が近付いてるみたいやな。

窓をたたたく音。

妙子 三つ葉、四つ葉やつた。ごめん。

幸子 クローバー。

妙子 若草クラブ。

幸子、窓を開ける。

妙子 まさか、ここから入るの。

幸子 玄関封鎖中なん。

妙子、窓を乗り越えて入ってくる。幸子、窓とカーテンを閉める。

妙子 風がきついわ。台風も自動車並みの速度になりはってんで。夕方には暴風圏に入るらしいわ。

雪子 ひさしぶり、元気。

妙子 元気、元気。幸ちゃん、何で玄関使わせへんの。こちらが使ってるもんやない。

雪子 占いさん。

妙子 占いさんか。

幸子 今、北玄関使ったらあかねん。

妙子 ふーん。下駄箱とスリッパたと足拭きまである。

幸子 スリッパに履き替えて。

妙子、スリッパに履き替えて上着を脱ぐと下は若草学園のセーラー服。帽子の下はお下げにリボン。

幸子 こいちゃん、本格的。

妙子 ばっちり、決めてきた。久しぶり、三つ網、似合っでしよう。

雪子 準備だけはええやん。

妙子 またまたしんどい部屋になったな。自転車まで飾って。

幸子 部屋のことと言わんとって。鶴ちゃんの代わりにバザー責任者にな

ったら、不用品がどんどん送られてくるねん。被災地とまちがえて

んのおもつ物かてあるし。

雪子 うち、同窓会のバザーに出す不用品集めるのが生きがいや。

幸子 雪ちゃんみたいながいるから困る。売れるもんばかりやない。どつ見ても

ゴミになるのまで送ってくるんやもん。鶴ちゃんは上手に始末してはったけど。

雪子 鶴ちゃん是不用品も自分の家で重宝してはったんちゃう、大家族やったから。

妙子 ほんま、始末のええ人やった。

雪子 さあ、お仕事会、始めよ。

妙子 ここで彫るのん。

幸子、あたりをぐるっと見渡して、カーテンを閉める。部屋が薄暗くなる。

幸子 ここは若草学園の図書館の談話室。

妙子 どころが。

幸子 想像すればいいやん。

妙子 穴倉みたい。

幸子 電気つける。

妙子 電球が半分、切れてる。

幸子 ごめん、買い置きないねん。ここは若草学園の図書館の談話室、想像してよ。

雪子 つたの絡まるレンガの図書館。
妙子 つたつて絡まつてた？
幸子 つたが絡まつてるのはチャペル。
雪子 そうそう、チャペル。つたの絡まるチャペルで祈りを捧げた日。チャペルで
地蔵さん彫るのまずいんやない？
幸子 空想してるだけなんやからええんよ。
雪子 「賛美歌を歌いながら清い死を夢みた」一番の歌詞が胸にささる。うち、試験
妙子 の前に何度もそんな気分やった。
雪子 『羊たちの沈黙』で地下に閉じ込められた少女の気分。
幸子 気色悪い映画。
妙子 ここは三人で放課後いた図書館の談話室。
雪子 アメリカの少女雑誌が毎月置いてあって。
幸子 セブンティーン。
妙子 なんであの雑誌置いてあつたんやろう。
雪子 アメリカ人の作ったミッションスクールやったからちゃうの。
妙子 私ら、あれでアメリカかぶれにされたんや。
雪子 ほんま、アメリカの映画、テレビにどっぷり浸つてた。
幸子 あこがれやった。うち、大きくなったらアメリカ人と結婚して、大きな冷蔵庫
からリットルの牛乳瓶出して口飲みするの、夢やった。
雪子 私はあかん。牛乳苦手やったもん。
妙子 セブンティーン、楽しみやったな。幸ちゃんは連載小説読んでほつたけど。
幸子 こいちゃんも毎月楽しみにしてたやん。
妙子 教科書以外で英語なんか誰が読みたい、ファッション、アメリカのファッショ
ン。ファッションと広告。
雪子 うち、洋服の絵、書いてお母ちゃんに作つてもらつたわ。
幸子 雪ちゃん、いっつもお洒落な服装してたもんな。
妙子 うちなんか、お姉ちゃんのお下がりがりばかり。
雪子 あんたらが雑誌読んでも、うちは図書館で宿題写させてもらうた。こいちゃ
んは要領がええし、幸ちゃんは頭がええけど。うち、卒業してからの方が学校
なつかしいわ。
幸子 うちはいつかアメリカ人の白馬の王子様に会えると思つてたん。
妙子 幸ちゃんは昔から夢見少女やった。
雪子 夢の中で生きてはるのは変わらへん。
幸子 ここはセブンティーンを読んでた図書館の談話室、神様どうかそう思わせてく
ださい。
雪子 私たちを若草学園の図書館に、タイムバック。
妙子 お仕事会スタート、オーライ。

三人、テーブルに向かつて座る。

雪子 幸ちゃん、開会のお祈り。

三人目を閉じ、手を組む。

幸子

天にまします我らの父よ。私たち若草学園の卒業生が今から同窓会のためにお仕事を始めます。三ヶ月前に亡くなった鶴子姉の遺志を引き継ぎ、私たち三人はお地藏様を百体彫ります。長い内戦で苦しんだカンボジアの子供たちに送ります。ドトールコーヒーのチラシが私たちを奉仕活動へと駆り立てました。ドトールコーヒーが募金を集めカンボジアに小学校を建てています。不幸な子供たちの平安と幸福のため子供たちを守るお地藏様を作って、小学校に送ります。パッチワークをアフガンスタンへ送る千葉支部や紐ぞうりを作ってアフリカへ送る埼玉支部には負けられません。どうか神様の大きなお力で明日の関東同窓会支部長会議までにお地藏様を百体完成させてください。父と子と精霊の御名によって。アーメン。

妙子

ほな、活動開始。

幸子

待って。追伸。隣の児玉が速やかに地上から消えてくれますように。アーメン。

お祈りが終わった。三人、輪になって気合を入れる。

雪子

幸ちゃん、厚手のテーブルクロス、他にないのん。

幸子

これであかん？

雪子

染みだらげやないの。いやや、なんか不用品でないのん。

雪子、ダンボールから夏掛けを取り出すとテーブルに掛ける。

妙子

よそで不用品でも、必需品になる。

雪子

だから若草学園のバザーは大事な行事なんよ。

幸子、ダンボールから角材を取り出す。

幸子

四体分しかないねん。

妙子

余分に買ったのに。

幸子

ごめん、だいぶ無駄にしてん。あとで弁償する。

雪子

このお地藏さんは初心者が作れる仏さん、頭がいびつでも背中がね

しれててもそれが個性なんやから。

目が一つでも。

幸子

それはあかんわ。一つ目地藏なんて。

妙子

お顔でいっつも手が止まるねん。

幸子

顔はうちが彫ってあげる。

雪子

ええわ、お顔は自分で彫らんと、魂がないお地藏さまになる。

雪子は手をアルコールで拭く。かばんの中から桐の箱を出し、紫の袱紗に包まれたお地藏様を二体取り出してテーブルに置く。

幸子 雪ちゃんの見せて。
雪子 手、きれい？

幸子、ぶら下がっているタオルを取って手を拭く。そのタオルを妙子に渡す。幸子、雪子のお地藏様を手取る。

幸子 雪ちゃん、上手になったなあ。こいちゃん、見てみ。雪ちゃんのお母さんによく似てはるわ。
妙子 ほんま。穏やかで優しいお顔してはる。
雪子 今は寝てはる時だけ。

雪子、自分のお地藏さまを本箱の一番上の段に丁寧に置くくと手を合わせる。幸子も続く。

妙子、タオルを紐に掛ける。幸子の夫のシャツが干してある。
妙子、幸ちゃんの旦那さんの。えらい大きい、エルエルサイズ。
それかてお腹がつかえてびちびちやねん。はい、雪ちゃん、こいちゃん。(角材を配る)

雪子 幸ちゃんが食べさせすぎちがうのん。(配られた角材に手をあわす)
幸子 家では朝と夜食しか食べはらへんよ。
雪子 朝から焼肉で夜食にステーキなんて食べさせすぎや。(シャープペンシルで徴をつける)

妙子 食べてくれはったらホツとするのんわかる。うちの人なんか兎のえさくらいしか食べはらへんようになって。

幸子 雪ちゃん、シャープペンシル貸して。
雪子 はい。コレステロール値、血圧、肝機能、測ってる？
幸子 ゴルフできるんやから元気なんよ。
妙子 うち座台から彫るわ。
幸子 なんて。

妙子 手が刀に慣れるねん。みんなの分も彫っとく。
雪子 うちはええ。一体づつ、心を込めて彫りたいねん。
幸子 うちも。

妙子 ゴルフ、どこで？
幸子 軽井沢、今晚帰って来はらへん。
妙子 ええな。今ごろの軽井沢。

幸子 おとといの晩、風呂上りに冷や汗かきはってん。風邪かと思つて心配したんや

けど風邪ではなかった。今年の夏風邪、たちわるいんでしょう。

百合が風邪で一週間も熱下がらんかったんよ。

それ、心筋梗塞の兆候ちゃうの。

お医者さん、風邪やって言いはったよ。

旦那さんの冷や汗。

心筋梗塞やったら胸が痛いやないの。

いろんな症状があるんよ。誰やったかな太った俳優、顔の四角い、ほら、大河

ドラマ出てた。

四角い顔。

うーん、思い出せない。歌も歌う。思い出せない。鶴ちゃんの旦那さんに似て

る。

その俳優がどうしたん。

冷や汗出たん。それで救急車で運ばれて、心筋梗塞やったんやて。

うちなんてしょっちゅう冷や汗かいてるわ。いちいち救急車呼んでられへん。

気持ち悪い。

冷や汗出たん。

名前思い出せへん。思い出すまで気持ち悪い。

あと四体や。一人一体。こいちゃんは早いから二体作れるんとちゃう。こい

ちゃんの見せて。

いややな。雑やねん。雪ちゃんと違う。

妙子、かばんから無造作にお地蔵様を二体出して、机に置く。

雪子 (熱心に見て)こいちゃんのお地蔵さん、こいちゃんの旦那さんに似てはるわ。

妙子 そうやるか。

雪子 幸ちゃん、見てみ。

幸子 ふっん。似てはる。目が大きいて鼻がすうつと伸びて。

雪子 こいちゃん、ほんまに旦那さんのこと愛してはるんやな。

妙子 ちゃう、ちゃう。お地蔵さん彫つてるとなんか腹がたつてきて。コン畜生コン

畜生思いながら彫つてしまっねん。そしたら、旦那の顔になつてるねん。

こいちゃんのコン畜生が詰め込まれてるお地蔵様やな。

怖いわ。

妙子 怖いで。

雪子、妙子のお地蔵様を本棚に置くと手を合わせる。

妙子、作業に取り掛かる。紙を貼ったり鉛筆でラインをひいたりするが他

の二人に比べて手早いのが目立つ。

二階からのこぎりを使う音。

妙子

ひゃあ、誰かいるの。

雪子 二階に玄関造るんやて。

妙子 二階に玄関。なんで。

雪子 占いさんやない。

妙子 階段も造るん。

幸子 外階段。

妙子 玄関が二階でリビングが一階。えらいしんどい家。

幸子 ええ運動になるわ。

雪子 ひまな工務店の息子が仕事してるんやて。ひまな時に。

妙子 百合と同じ高校の子がいたわ。あの子やろか。幾つくらいの子。

幸子 今の子、年なんかわからへん。十代にも見えるし、三十超えてるようにも見えるし。髪かて染めてるし、整形してるかもしれへんし。

妙子 幸ちゃんの子供いてへんからわかれへんねん。ちょっと見てきてええ？

幸子 (むっとして) やっと午後の仕事始めてくれたんよ。仕事の邪魔はせんといて。

妙子 見るだけ。

幸子 あかん。(強い口調で)

雪子 お仕事、お仕事。

妙子 百合と同じ高校の子、リンリン言うねん。

雪子 パンダみたい。

妙子 林太郎やから。リンリン。

幸子 林太郎いうてた。暇名林太郎。

妙子 やっぱり。百合と同じ高校の子や。あの子この前までバンドやってたんよ。の

こぎりほんまに使つとるんやろうか。ギターひいてるんとちやう。

雪子 そんな子で大丈夫なん。

幸子 急ぐし、選んでられへん。今月中に仕上げんとあかんねん。

妙子 占いさん。

幸子 占いさん。

雪子 占いさん。

のこぎりの使う音が鈍く地鳴りのように途切れることなく響き続ける。

雪子、シャープペンの芯が折れる。

(神経質そうにシャープペンをカチカチ回しながら) 折れた。

雪ちゃん、うちの使つて。

(かまわずカチカチ回す) 集中できひん。

今日だけ休んでもろつたら。

今月中に仕上げんとあかんねん。

お地藏様と玄関どつちが大事ななん。昔から幸ちゃんは自分勝手なところあつた。

そやかて。

雪子 私はお母ちゃんをショートステイに預けて、主人にも受験生の息子にも不自由

させて、夕御飯も夜食も明日の朝御飯も全部冷凍してチンで食べられるように

して、今日はお母ちゃんにも煩わされへんと心静かにお地藏様、彫ろつとして

出てきたんよ。窓も開けんと穴倉みたいな部屋で、その上二階はギリギリ音出して。耐えられない。頭の中まで追いかけてくる音はお母ちゃんだけでたくさんや。

とりあえず、窓開けよう。

やめて。児玉が覗くかもしれんと思うたら手が震えるねん。さっきも犬がいのうなったってぐじゅぐじゅ言いに来はるし。

幸子、震え出す。

雪子 幸ちゃんはいつも自分がよければいいのよ。

雪子、立ち上がったって、窓を大きく開けると児玉の顔が現れる。

あつ。

あの。

なにか。

立ち聞き。

違いますよ。今、ノックしようとしたら、突然窓が開いて。セーラー服がいて。

幸子、窓の側に行く。

すみません。

心臓が止まりそう。

心臓が止まりそうになったのはこっちです。

雪ちゃん。

あの、今日はなにか特別のお集まりで。

同窓会のお仕事会です。六丁目と一丁目に来てくれて。

あらっ、それはそれは。

ガットのチラシこの人達に配ってもらいます。

まあ、よろしくお願いします。今日はセーラー服で。お仕事会。セーラー服で。

制服は私たちの誇りです。若草学園のお集まりでは母校を偲んで着用しますの。

(立ち上がったって)似合いますでしよう。

形から入るのはわかります。どちらの制服で?

若草学園です。ご存知でしょう。

さあ。

関西ではこの制服は有名なんです。このセーラー服を着ると母校で学んだ神と隣人への愛と奉仕の精神が脈々と湧き出て、どんな困難も立ち向かっていけると思えますの。

力が出るんです。

(雪子と妙子に)お仕事、お仕事。

妙子
幸子

雪子

児玉

雪子

児玉

妙子

雪子

児玉

幸子

児玉

幸子

児玉

幸子

雪子

児玉

幸子

雪子

児玉

妙子

児玉

雪子と妙子、椅子に座って彫刻刀で角材の角の木取りを始める。

児玉 お宅の木の枝、風が吹くと、うちの窓にあたってうるさいんです。ガットが家出したのもそのせいかもしれませんし。
幸子 すみません。
児玉 窓がヒューヒュー泣くんです。

風の音。

児玉 風が出てきましたでしょう。台風が速度が速くなったそうです。自転車が自動車くらいに。夕方に関東は暴風圏にはいるようです。
幸子 すみません。
児玉 枝切りセット買いましたの。テレビで宣伝してますでしょう。高い木の枝もはしごなしで簡単にチヨキチヨキ切れる。
幸子 主人に切ってもらいます、日曜日に。
児玉 お忙しいじゃないですか。
幸子 でも、やってもらいますから。いえ、植木屋さんに来てもらいます。
児玉 届きましたの、さつき。
幸子 すみません。でも。
児玉 ガットが帰ってきてても、枝が窓をキイキイこする音で、また家出するかもしれないでしょ。心配で心配で。今日中に切ってしまいたいです。一刻も早くすみません。
幸子 (強い調子で) ちょっと、確認していただきたいんですけど。お庭に出てきていただけます?
……。
児玉 じゃあ、皆さま、ごめんあそばせ。あの、ガットのチラシよろしく。嵐が来るっていうのに、どこににいるのかしら。

児玉、去る。

幸子 ちょっと見てくる。
妙子 スマイル、スマイル。

幸子、出ていく。

雪子 ああ、この間に窓全開。空気を入れ替えしよう。
妙子 すみません、すみません、すみません。
雪子 なに、謝ってるの。
妙子 幸ちゃん。

雪子 口癖なんよ。

妙子 この部屋。

雪子 児玉のチェックでゴミ捨てられへんねん。

妙子 ゴミ屋敷で一日中お地藏さま彫って…。

雪子 旦那さん、豚みたいに太らせて…。

雪子、窓を大きく開ける。

雪子 頭がええ人やのに…。(深呼吸)

妙子 神経参ってはる。それもかなりいつてる。

雪子 ああ、息ができた。幸ちゃんの家の庭は風かて臭いけど。

妙子 ガットでも埋まってるどちやうの。

雪子 怖いこと言わんといて。

雪子、手で部屋の空気を追い出す。

妙子、軍手をはめて彫刻刀を選んで、彫りだす。

雪子 こいちゃんは手早いな。

妙子 細かいこと気にせえへんから。

雪子 でき上がりはええ。

妙子 百体でなくてもええと思わへん？

雪子 うちかて埼玉や千葉には負けとうないけど。

妙子 鶴ちゃんが百体彫りたい言うてはったけど、もっと卒業生の協力があると思て

たんや。

雪子 幸ちゃん、意地になつてはるねん……。ええ風が入ってきた。

妙子 この辺はいつつも風が吹いてる。

雪子 転勤で関東に来た初めての春、風が強うて洗濯もの干されへんかった。からか

ら渴いた風が吹いてきて。気持ちまでからからに渴いていった。

妙子 春の一番ええ季節にな。

雪子 芦屋川と夙川の桜がなつかしい。

妙子 若草学園の校舎へ行く桜並木。

雪子 お弁当を食べた校庭の桜。

妙子 入学式の時、桜の下で滑って転んでお弁当ひっくり返してん。

妙子、手を滑らせる。角材がころころと床を転がる。

妙子 あっ、しもた。頭の部分、欠けてしもた。

雪子 お弁当どうしたん？

妙子 寄付してもらた。まあええか、小さいお地藏さんにするわ。(角材を拾つ)

雪子 こいちゃんはそれができるから楽なんや。

妙子 なにが。
雪子 簡単にリセットできはる。

妙子、刀を持つ手を止める。

妙子 もう、切れへん、この刀。
雪子 こいちゃん、見せてみ。(妙子の彫刻刀を見て)刃こぼれしてるやん。うちの使
つて。

雪子、麻布に巻かれた彫刻刀をテーブルに並べる。

妙子 雪ちゃん、ええのん。
雪子 自分用に専門家用刀セットも買ったん。初心者用は使わへんから。
妙子 自分で砥ぐの。

雪子 砥ぎ屋に出したらもつたいたいなし。好きやねん。包丁なんか砥ぐの。お母ちゃ
んの顔かて三日に一回は剃つてあげてる。

妙子 上手く切れるわ。だから雪ちゃんのお地藏様は繊細なんや。

雪子 新しい木に刀を入れる時、ぞくぞくするねん。

妙子 このシナの木は柔らかくて彫りやすい。

雪子 自分の垢を殺ぎ落とすような気がする。払っても払っても垢は毎日たまるし。
妙子 うち自分の怒りを殺ぎ落としてる気がする。怒りは毎日、毎日湧いてくるし。
雪子 ローン返すお金はできたん？

妙子 どの株売るか悩んでる。悩んでるうちに三ヶ月や。

雪子 こいちゃんはえらい、うちなんか投資信託の案内見てもめんどうで。

妙子 雪ちゃんはええ、すっかりもんの旦那さんがいて、お母ちゃんかてお金持って
はるでしよう。

雪子 そんな、こいちゃんが思うてはるほど、持ってはらへん、年金かて雀の涙。

妙子 雪ちゃんは世間を知らへんから。

雪子 いつつもそんな目でうちを見はる。

妙子 大事に大事に育てられて就職もせんとお嫁にいつて。

雪子 苦労はしてる。お母ちゃん、誰か側にいないと呼びはるねん。夜、一晚中起き
て「痛い、痛い」言い続けや。昼間もうつらうつらして、目覚ますと呼びはる。

妙子 どこが痛いのん？

雪子 口癖なん。

妙子 一日寝てはったら、腰かて痛なるんちゃう。

雪子 側に行ったら、言いはらへんから、痛いところがうねん。「痛い」言ったら、誰か
来てくれると思てはるだけや。元気な時は人一倍、周りに気つかう人やったの
に、一生分のわがまましてはるわ。うちの息子はおばあちゃんの声が聞こえへ
んようにいっつもヘッドホンしてるし、夫はできるだけ家に帰るの遅らせて
るし。

妙子 悲惨。

雪子 男は度胸がないねん。おばあちゃんの声聞いて、せつのつなるんちゃうの。…

妙子 旦那さんの捜索願い出したん？

妙子 大の大人が自分で家出してはるのに、大事な税金使こつたら、悪いやないの。本人の意思を尊重してあげんと。

雪子 大手町にいहारんちゃう。

妙子 なんで。

雪子 介護者の集いで聞いたん。徘徊のおじいさん大手町で保護されたんやて。

妙子 旦那が一番嫌いな場所や。

雪子 犯人は現場に戻るいうやない。

妙子 いつ犯人になつたん。

雪子、白い手袋をつけると刀を選んで、彫り出す。

雪子 お母ちゃんな、こないだ、大変やつたんやで。一時間くらい留守して帰つたら、

夏掛け、顔までかかつてえらい苦しそつやつたん。汗ビツシヨリかきはつて、

真赤な猿みたいな顔してはつた。もう死にはるのか、ほんまに思つたん。

先だつてもそんなことあつたんちゃうの。夏掛けが顔にかかつて苦しそつやつ

たとか、電話で聞いたわ。

雪子 三回目。ほんまに信じられないようなことがあるねんで。自分であんな薄い夏

掛けも払いはることできひんの。

雪子 なんで夏掛けが顔にかかるの。

雪子 ふわふわして軽いからちゃう。体、もぞもぞしてたら、なんやふわふわ上にあ

がつてくるみたい。

妙子 なんぼでもあるでしょう。夏掛けなんて。ふわふわせんの。

雪子 あの夏掛けはお母ちゃんが気にいってはるの。白地にきれいな緑の葉っぱが散

つて涼しげでほんまによつ似合いはるねん。駅前のデパートからあちこちのス

ーパー、探してやつと見つけたんや。年寄りやからつて身の回りは気つけてあ

げんと可哀相でしょう。お母ちゃんの部屋はカーテンかてきれいな黄色で、畳

にひいたじゆうたんは緑にしてん。夏掛けは白地に緑。

妙子 百合の部屋みたい。

雪子 ベットはいつつもラベンダーのエッセンスオイルふりかけてるねん。安もんち

がうんよ、本物のエッセンスオイル。ラベンダーは気持ちをしラックスさせる

んやて、介護者の集いで勉強したん。ヘルパーさんも感心してくれてはる。毎

日、体中しらべて床ずれなんか一つも作らせへん。

雪ちゃん結婚してからほんま賢こなつた。東大目指してる息子育てて、寝た

きりのお母さんをわざわざ弟さんのところから引き取つて。

雪子 神と隣人への愛を学んだんやもん。

妙子 そうや、私ら若草学園の卒業生やもんな。

二階から金槌の音、一際高まる。

雪子 たまらへん。頭を金槌で叩かれてるみたい。こいちゃんは平気なん？
妙子 うちなんか上は毎日幼稚園の運動会や。一戸建てとはちがうもん。

雪子、かばんから薬を出すと持参のペットボトルで飲み込む。

妙子 なに、飲んだん。

雪子 精神安定剤。

妙子 大丈夫なん、そんな薬飲んで。

雪子 いっつも飲んでるから大丈夫。お医者さんにもらってるんやから。

雪子、たち上がる。

雪子 妙ちゃん、決めた。二階、寝てもらおうわ。

妙子 寝てもらおう？

雪子 睡眠薬飲んでもらおう。

妙子 持ってるの？

雪子 さっきお母ちゃんの先生のところでもろてきてん、いっばいある。ジュースに混ぜて持っていこう。

妙子 幸ちゃんに聞かな。

雪子 内緒で。また、占いさんに聞かんとわからへんて言いはるにちがいないもん。

妙子 そんな、ばれたら、えらいこつちゃあ。

雪子 なんて。ばれへん、ちよつとお昼寝するだけや。

妙子 あとで問題にならへん？

雪子 今ごろの若い子、いっつも眠たそうにしてはる。寝かせてあげたら

感謝されるわ。

妙子 効きすぎてそのままいきはったら。

雪子 いきはるって。

妙子 死にはつたらどないするのん。

雪子 お母ちゃんかて飲んでではるけど、寝はるだけや。

雪子、思いつきり刀をテーブルに突き刺す。

雪子 ごちやごちや言うならうち帰る。

妙子 わかった、わかった。ちよつと、昼寝してもらおう。昼寝してもらえええ。

雪子 (にっこりして) こいちゃん、ジュース探して。

雪子、台所へ。

妙子、しゃがんで贈答品の中からジュースの箱を探す。

妙子 幸ちゃんの家、ほんま、もらいもん多いな。

雪子の声 旦那さんがやり手やもん。会社でもトップの出世なんやて。なるべく濃い味のジュース。

雪子、すり鉢とすりこ木を持ってくると、錠剤をすりつぶす。

妙子 お薬、お母さんにもそないしてるの。

雪子 錠剤やと飲みにくいでしょう。食べ物かてのどに詰まって、気管支の方へ行ったらすぐ熱だしはるん。食べ物も薬も全部すり鉢ですって。お母ちゃんには手かけてんねん。(錠剤をどんどん足していく)

妙子 ジュース、ジュース、ジュース。あつた、去年のもらいもん。(箱の包装紙をびりびり破く) 賞味期限切れや。ままええか、睡眠薬入りで飲むんやから。

妙子、ジュースの箱を開けると一リットル入りの瓶を一本出す。

妙子 雪ちゃん、ジュース。

雪子 お茶受け持ってきた。京都のそば饅頭。うちの手提げに入ってる。こいちゃん、お皿に盛って。あと、コップと氷用意して。
妙子 わかった。
雪子 ありがとう。(雪子、すり鉢の粉を包装紙に受けると、瓶に注ぎ、混ぜる)

妙子、お盆に大きなコップと氷と皿を持ってきて饅頭を盛る。

妙子 うち、二階に持っていくわ。

幸子、窓を乗り越えて帰ってくる。

慌ててお盆を隠す妙子と雪子。

雪子 お疲れさん。上手かった？

幸子 あのチヨキチヨキ、難かしい。往生してはる。やっぱり、一、九、八はあかん……。何、隠してんの。

妙子 二階のおやつ用意してん。

幸子 三時まで待って。今、持っていったらまた休憩される。

雪子 ちよつとくらい、ええやないの。暑いのに気張って働いてはる。

幸子 今月中に終わらせんとあかんねん。

妙子 せっかく用意したのに。氷かて溶けてしまっ。

幸子 なんやかんや理由つけて休まはんの。こっちで理由こしらえんでも

ええやないの。今はおやつはあかん。

雪子 幸ちゃんは若い人にきついわ。

雪子、しぶしぶ軍手をつけて作業を始める。ちよつとむくれ、幸子から離れるように椅子の向きを変える。妙子と幸子も続く。二階の音も続く。

幸子

雪ちゃんは器用やし、こいちゃんの手早いけどうちは何体彫つても不器用や。顔に刀入れる時、どんな顔にしたらええかわからへん。何体彫つても、わからへんねん。

妙子

考えすぎなんや。

幸子

彫刻刀を持つのは好きや。気持ちが静かになる。ゴミ捨てんといかん、部屋整理せなあかんとか全部忘れられる。児玉のこともガツトのこともない世界にいけるんよ。

妙子

うちも今日の株価が上がるやろか下がるやろかの心配がない世界にいけるわ。

雪子

心臓外科医、最初に体にメス入れはる時、どんな気持ちになるんやろつ。

雪子

うちもそう思うねん。

続く